

平成30年度（第62回）

岩手県教育研究発表会発表資料

17 いきる・かかわる・そなえる分科会

「夢と希望・大船渡の未来！」

震災学習列車と復興の学びから

平成31年2月8日
大船渡市教育委員会
大船渡市立盛小学校
菅原 るみ子

平成30年度（第62回）岩手県教育研究発表会

17 いきる・かかわる・そなえる分科会

「夢と希望・大船渡の未来！」

震災学習列車と復興の学びから

平成31年2月8日
大船渡市教育委員会
大船渡市立盛小学校
菅原 るみ子

1 地域や学校の状況

- ・ 盛川の氾濫により、盛駅を中心に商店街や住宅地が浸水
- ・ 震災直後は体育館や校舎が避難所
- ・ 平成28年10月まで、校庭に仮設住宅



H28年11月 校庭開き

盛町・大船渡への誇り



- 地域の方々の仕事に対する姿勢や復興にかける思い
- 自分たちを育ててくれている郷土への愛着とそこに暮らす方々とのつながり



盛町での校内マラソン大会

- ・ 地域を支える交通や産業の学習
- ・ 地域で行われる伝統行事の学習

2 復興教育カリキュラムの見直し

(1) 震災学習列車の学習

- 1・2年生 三陸鉄道はすごい！
- 3年生 残ってよかった！三陸鉄道
- 4年生 負けない！三陸鉄道

(2) 地域の産業や伝統行事の学習

- 1・2年生 津波のこわさと自然の力よさ！
- 3年生 豊かな海を取り戻すために！
- 4年生 地域のためにつくした新日鐵住金釜石製鉄所
- 3・4年生 さいとう製菓 地域とともに！
- 5年生 情報を発信し続けた「東海新報」
- 6年生 盛町の復興をみんなの力で！



3 各学年の取り組み



1・2年生 三陸鉄道はすごい！

大きな津波の怖さと三鉄のすばらしさ

- ・ 4両のあった車両のうち、3両は津波で流された
- ・ 40mの津波により、大きな防波堤は壊された。
- ・ トンネルの中にいた1両は残った。人も助かった。

【感想】

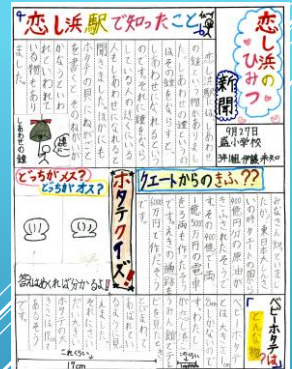
- 津波が来ても、1両だけ、三鉄が残ったのが、すごい。
- すごい津波で、三鉄が3両もこわれたり、線路も壊れたりしたのに、みんなのために、新しくつくってくれてうれしい。
- 海の波が、とてもきれいだった。だから、また、三鉄に乗って、海の景色を見たい。
- 三鉄に乗って、海って広いんだなあと思った。ものすごく、気分がよかった！



3年生 残ってよかった！三陸鉄道

津波の被害からの復興

- ・ 残った1両は、硬い岩盤のトンネルだったために助かった。
- ・ クウェートからの原油の寄付 ⇒ 400億円
1両1億5000万円の車両 3台
車両に感謝の言葉とマーク
- ・ 108円のキットカット ⇒ 190円の切符



【感想】

- 400億円分も原油が寄付されて、びっくりした。
- トンネルの中にいた1両が残っていて、ほっとした。
- トンネルが硬くてよかったと思う。それで助かった人がいたので。
- クウェートありがとう！そのおかげで復興することができた。

4年生 負けない！三陸鉄道



三陸鉄道の復興への思い

- ・被害の大きさから、なくなる心配
⇒多くの支援

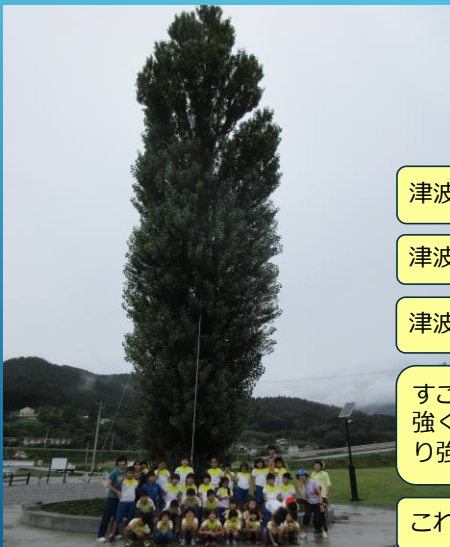
走っていない列車の切符
壊れたレール



【感想】

- 地震が起きたとき、一番頑丈なトンネルの中にいたので助かったと聞いて『奇跡の車両』だと思い、感動した。
- 列車から見た海は、とてもきれいだった。水平線もとても心に残った。
- 地域の人々から、残してほしいという声があったと聞いた。三陸鉄道は、地域の大切な足だと思った。長い時間とたくさんの費用をかけた三陸鉄道はすばらしい。
- 災害に遭っても負けない力がすごい！

1・2年生 津波のこわさと自然の力づよさ！



ど根性ポプラ

こんなに大きな石が流されるなんて、津波はすごく大きかったんだな。

こんなに大きな岩が、津波で流されたと聞いてびっくり！



津波石

津波が2回来てても倒れなくてすごい！

津波でも枯れないので、根性があるなあ！

津波で、潮がしみても、生きているのはすごいなあ！

すごく大きかったのでびっくりした。2回の津波でも流されずに、粘り強く頑張ってきた「ど根性」がすごい！名前にぴったり。これからも粘り強く頑張るね。

これからも、ずっと倒れないでほしい。

3年生 豊かな海を取り戻すために！

「恋し浜ほたて」の漁師 佐々木淳さんの取り組み

- ・船も漁場も全てがなくなった。
- ・アメリカ等、多くの国からの寄付金 ⇒ 400億円
- ・ほたてを再開 ⇒ ほたてを育てられることが最高の喜び

※いつまでも落ち込んでいてはダメだ。
明日を信じて生きよう！



【感想】

- ほたての養殖が再開できたことは、本当によかった。これで、おいしいほたてを、またたくさんの人に食べてもらえる。
- 何もかも無くなったときに、「明日を信じて生きよう」と思えることがすごい！自分だったら、どうしようもないと思いきらめる。大変なときに前向きに考えられるのは、すばらしいことだと思う。
- 支援をくれたたくさんの国の人たちに、「ありがとう」を伝えたい。

4年生 地域のためにつくした新日鐵住金釜石製鉄所

釜石製鉄所の取り組み

- ・土地を貸して、仮設住宅を建てた。
- ・震災後7月まで、工場のお風呂を開放した。
- ・煙突の煙が出ていると安心すると聞き、再開を急いだ。

※自分たちにできることはないか。
釜石市民とともに！



【感想】

- 煙突から出ている煙が復旧の合図だったと聞き、すごいと思った。
- 盛小学校の校庭には、仮設住宅があったが、釜石の学校には、建てなかった。自分たちにできることはないかと考え、グラウンドなどに仮設住宅を建てさせたと聞いて、かっこいいと思った。
- お風呂を6051名に提供したと聞き、多くの人が被災したんだと思い、悲しくなった。貸した製鉄所の人たちは優しい。
- 困っている人への支援や熱い思いを忘れず、感謝して生活していきたい。

3・4年生 さいとう製菓 地域とともに！

さいとう製菓さんの取り組み

- ・ 5店舗が津波に飲み込まれ、工場の機械は壊れた。
- ・ お菓子をつくりたくても、材料が手に入らない。
- ・ 2000万円分の「かもめの玉子」を無料配布した。
- ・ 40日で生産を再開した。



※いつも大船渡の人に愛され、支えられてきた！



【感想】

- お店が、津波で流されてしまったのに、40日で再開したと聞き、あきらめないことがすごいと思った。ぼくなら、もう、あきらめてしまう。
- 被災者にかもめの玉子を、無料で配ったと聞き、大船渡の人に助けられてきたから、恩返しをしたのだと思う。
- 材料が手に入りにくかったにもかかわらず、かもめの玉子を配った。「地域の縁があるから。」と、地域を大事にしているのがすばらしい。

5年生 情報を発信し続けた「東海新報」

- ・ 東日本大震災の次の日には、新聞を発行（自家発電装置 平成21年9月導入）
- ・ その後も毎日発行し続けた
- ・ 3か月間、避難所に無料で配布
- ・ 給料は、半分



※地方紙として、その報道が地域のためになるかどうか大切！



【感想】

- 避難所に、新聞を無料で配達したと聞き、心が温かくなった。東海新報さんで、大船渡が支えられていたのだと思う。
- 新しい情報を届けようと頑張っている姿は、町のヒーローのようだ。勇気もすばらしい。私にはできないことだ。これまでは、見出ししか読まなかった自分が悔しい。これからは新聞を読むようにしたい。
- 備えの大切さを学んだ。自分たちにできる備えは何か考えたい。

6年生 盛町の復興をみんなの力で！

七夕に込められた3つの思い

- ◆『鎮魂』⇒死者の霊をなぐさめ鎮めよう！
- ◆『復興』⇒震災を乗り越え笑顔にしよう！
- ◆『感謝』⇒盛町への支援をありがとう



講話

PTA会長 今野宏昭さん
大船渡市役所復興政策課 迎山光さん
(PTA副会長)

【感想】

- これからも復興をキーワードに、七夕を大切にしていきたい。江戸時代から続いている七夕を続けることで笑顔にしたい。
- 自分たちが盛の七夕の伝統を引き継ぎたい。震災の年も途切れずに続いてきたことを、次世代の人たちにも伝えていきたい。
- 5歳から七夕に参加して、山車をつくる大変さも近くで見ました。これまで、支えてきてくれた人たちと一緒に、私たちが大人になってもずっと続くことを願っている。
- これまでたくさんの方から受けた恩に感謝し、七夕の意味や思いを忘れずに、積極的に参加していきたい。
- 昔から途切れることなく続いてきた七夕には、たくさんの人たちの思いがあることが分かった。笛や太鼓、山車づくりなど、楽しみながら、盛り上げていきたい。

4 成果と課題

【成果】

- 東日本大震災の被害の大きさを感じ、防災への意識を高めることができた。
- 地域に根ざした活動、地域を復旧・復興させる活動をしていることを知り、仕事に対する姿勢や復興にかける思いを学ぶことができた。
- 地域の方々から学ぶことで、地域とのつながりを感じたり、郷土への誇りを感じることができた。
- 備えることの大切さを実感し、今後の生活に役立てようという意識が高まった。
- 盛町だけでなく、広く大船渡の取り組みを学ぶことができた。

【課題】

- ◆今後も地域と連携し、地域から学ぶ学習を継続していきたい。
- ◆盛町や大船渡について学ぶカリキュラムについて、さらに内容を吟味していく必要がある。
- ◆市外の子ども達との情報交流等による学習の深まりも、検討していく必要がある。



地域にとって子どもは宝
子どもたちの笑顔が私たちの喜び



夢と希望をもって、
盛町や大船渡のために
そして岩手のために
がんばる子どもたちに！

ご清聴ありがとうございました。